

# 町田圏域地域ケア推進会議報告

## ～お薬手帳の活用を目的としたカバーの試用報告～

\* 去る2021年2月26日にオンラインで開催した「町田圏域 地域ケア推進会議」の結果をお伝えします

### ① 取り組みの背景

■ お薬手帳はすでに広く普及しており、高齢者の重要な医療情報も多く記載されています。昨年度の地域ケア会議では、これを**医療と介護の連携**の一手段として活用できるのではないか、との意見が出されました。

一方、受診時に持参されず情報が更新されない、1人で何冊も所持されている等、正しく用いられていないとの課題も指摘されました。

■ そこで、お薬手帳の正しい使用方法の普及啓発、並びに、医療と介護の連携促進を目的として、「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」にてオリジナルのお薬手帳カバーを1000冊作製しました。

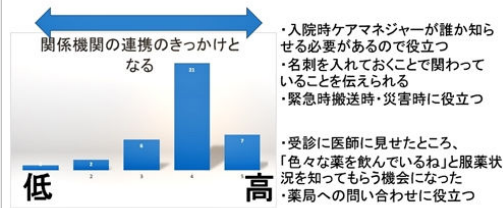
そして、概ね65歳以上のこのカバーの使用が望ましいと思われる方に配布。その後、高齢者と配布に関わった専門職の双方に効果測定アンケートを実施しました。

カバーの使い方を示したカード▶  
あんしんキーホルダーの登録番号を記すカード▶

＜会議出席者数＞

医師	1名
歯科医師	3名
薬剤師	36名
医療相談員ほか	6名
ケアマネジャー	30名
市役所	6名
高齢者支援センター	19名
合計	101名

### ＜専門職向けアンケート結果＞ 関係機関の連携のきっかけになる



■ 高齢者向けアンケートから、次の3点が判りました。

- ① 1冊にまとめて管理でき、受診時に忘れずに持参することに効果がありました。
- ② 高齢者自身でまとめ、管理し、相談することを促進するきっかけとなりそうです。
- ③ 連携ツールとして活用していくには、専門職側からの働きかけが必要です。

■ 全体として、カバーの配布が、手帳の正しい使い方を説明する機会となったことで、啓発に効果がありました。

また、保険証等と一緒に管理することで、受診時ばかりでなく、救急搬送時や災害時への備えにもなりそうです。

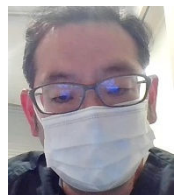
手帳が連携ツールとして活用されるには、より広く普及することと、専門職が活用する意識を持つことが必要と考えられます。

### ③ 発表 お薬手帳を活用した多職種連携に期待すること

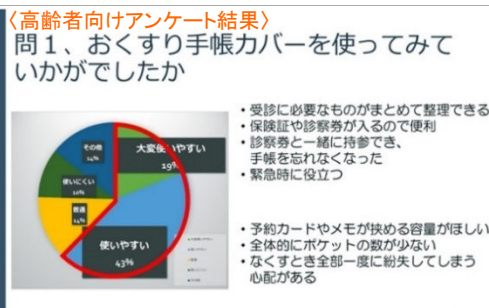
町田市歯科医師会理事 山田 潔 歯科医師

カバーは、受診時に必要な物をひとまとめにでき、大変有効なものと感じます。今後、マイナンバーカード等ICT化が進む中でも、高齢者がパッと見られるものも残して、連携を図るのがよいでしょう。

この取り組みを続け、多くの方に使ってもらえる方向へ進めてほしいと思います。



### ② 効果測定の結果



## ④ 質疑応答 服薬支援で課題となっていること



桜実奈 薬剤師

**Q)** ドクターショッピングの傾向がある高齢者。複数の医療機関から重複して薬をもらい、残薬がたまっています。対応方法は？

**A)** 居宅療養管理指導を利用するのがよいと思います。ご本人のこだわりを把握し、少しずつ整理して下さい。多職種で時間をかけて状況を把握して下さい。



町田市薬剤師会理事  
橋本 登 薬剤師



湧和 遊佐様

**Q)** 薬を飲む理由や効果を理解できず、飲み忘れの多い高齢者に、納得して飲んでもらうには？

**A)** ご本人に係りつけ医を決めてもらい、その医師に相談するとよいでしょう。(橋本先生)

**A)** こういう場合にもお薬手帳が活用できるかもしれません。患者さん対医師となると、患者さんにプレッシャーがかかるので、ケアマネジャーさんが手帳に書いて、医師に渡すとよいと思います。



近藤医院  
近藤 聡 医師

**Q)** お薬手帳に実際に書き込んでみたことのある方は、何人くらいいますか？(近藤先生)

**A)** 8事業所より👋リアクション(挙手)  
→ 一言書くことからコミュニケーションが始まると思います。(近藤先生)

**Q)** 薬の管理が難しい高齢者。「残薬を薬局に持って来てね」と声を掛けても伝わりません。対応方法は？(ドラッグセイムス 前田様)

**A)** 薬剤師会で‘残薬バッグ’を配付しています。ご活用を。



能ヶ谷調剤  
薬局 長沼様

**Q)** 介護者が認知症である家庭を初めて訪問する予定です。ケアマネジャーさんはいっています。何に気を付ければよいですか？

**A)** 訪問予定日をカレンダーに記入してくる等の工夫をしています。ケアマネジャーや高齢者支援センターとも連携をとれるとよいですね。(介護支援サービスめぐみ 金子様)

## ⑤ 投票・結果発表

問2)今般の感染拡大により、多職種連携において課題を感じることはありますか？(複数選択)

高齢者の情報伝達	32
同行訪問による相談・検討が積極的に行えない	32
入退院時の情報伝達・介入支援	23
大きく変化はない	16
ICTの活用等によりむしろ連携しやすい	6

問4)お薬手帳カバーを使用し、お薬手帳の活用を進めたいと思いますか？(1つ選択)

機会があれば活用したい	42
大いに活用したい	29
仕様を変更して活用したい	1
あまり活用できない	1

## ⑥ 総評 近藤医院 近藤 聡 医師

患者さんのお薬手帳に記録を書き添えると、患者さんが嬉しく思っているのを感じます。また、ノート代わりに手帳に記録が残ること、さらには、栄養に関する説明や注意ポイント等を書いておく多職種の方が共有できることもよい点だと思います。

まずは、お薬手帳に自分たちが書き込み、患者さんや家族とのやり取りに用いるなどして、多職種間の連携ツールとして使い始めることが必要と考えます。

## ⑦ 事後アンケートより

医師、事業所、家族、そして、ご本人のすべてが情報を共有できるツールとして有効。この取り組みを全域に広げてほしい。——といったご意見を多数いただきました。

## ⑧ 今後の取り組み

今回のお薬手帳カバーは、手帳の正しい使い方の啓発と、医療・介護連携のきっかけづくりに、一定の効果を上げました。

手帳を活かした連携事例を町田圏域高齢者支援センターへお寄せ下さい。手帳の活用がよりよい支援に繋がっているか、検証を行っていきます。